

# 平成28年度第4回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査） 会議要旨

1. 開催日時 平成28年8月19日（金） 午後1時30分～4時40分
2. 開催場所 文化ホール2階 大会議室・多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、  
玉井和幸委員、北村倫子委員、大野定俊委員、浅賀博委員、  
桑田佳雄委員、奥野不二子委員、志村はるみ委員 以上11名
4. 発表者 提案者5名
5. 事務局 飯塚参事、伊藤、杉山
6. 傍聴者 13名（定員20名）  
※議題1については、印西市情報公開条例第7条第5号により非公開。

## 7. 会議内容

- (1) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）／スケジュール及び  
評価の確認について
- (2) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
  - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明
  - ②プレゼンテーション
    - 提案4 荒れた里山の整備事業（里地里山保全ねっと）
    - 提案5 地域高齢者への身体活動増進プログラム（ALipro）
    - 提案6 印西市エンディングノートの作成と配布  
(エンディングサポート風)
    - 提案7 アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」の  
すすめ (勇気づけサークルでこぼこピース)
  - ③審査結果発表・講評

## 8. 審査記録

- (2) 企画提案型協働事業 公開審査会（アイデア審査）
  - ①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

### 事務局説明

- ・本日の審査会の進行について説明した。また、提案1から提案3の継続提案については、平成28年度企画提案型協働事業実施要領に基づきアイデア審査は行わず、書類審査のみで最終審査へ進出したことを報告した。

### ②プレゼンテーション

- 提案4 荒れた里山の整備事業（里地里山保全ねっと）

## 提案者の発表

・パワーポイントを使い、アイデア提案について説明を行った。

## 質疑応答

(質問) 団体としての過去の活動実績や、事業の実施に向けた実施体制、また境界等に関する専門性の有無について教えていただきたい。

(回答) 会員は4名なので、自分だけでできるとは考えていない。新規の団体なので活動実績と言えるようなものはない。事業の実施に向けては、森林組合や環境保全団体の協力を得たいと考えている。境界等については、市に相談しながら進めていきたい。

(質問) 現段階で整備の場所や保全活動をどのようにイメージしているのか。

(回答) 整備対象はまず自分自身の住んでいる旧印旛村周辺を考えている。活動の規模はこれから調査していきたい。

(質問) 里山には地権者がいて、境界を定めるには相当な手続きが必要である。その業務を市が行うのであれば大きな負担になるし、団体が行うのも大変な労力がある。クレームが発生して市が難しい対応を迫られる可能性もあり、そのあたりのリスクをどのように考えているか伺いたい。

(回答) 市と協働して実施したいので、お互い責任を持って進めることが大切だと考えている。団体として責任を持って行うが、協働事業である以上、市にも協力してもらいたい。

(質問) 市との役割分担についてどのようなイメージをお持ちか。

(回答) ある程度のイメージは持っている。市と相談しながら決めていきたい。

(質問) 専門性の必要な部分を検討してから市に相談した方が良いのではないか。

(回答) 現状ではそこまで検討していない。

(質問) 事業計画の5W1Hが見えてこない。そこを明確化することが重要ではないか。

(回答) 次の審査までには具体化したい。

(質問) 山林や農地など対象範囲は多岐に渡る。いまイメージされている対象地域はどこになるのか。

(回答) 民有地や市有地を考えている。

## **提案5 地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供 (ALipro)**

### 提案者の発表

・パワーポイントを使い、アイデア提案と過去の実施状況について説明を行った。

### 質疑応答

(質問) まちづくりファンドを活用して実施されているが、企画提案型協働事業との

関係はどうなっているのか。

(回答) 長期的に継続実施し、市内で広く定着を図ることを目標としている。まちづくりファンドの助成金では広域的な展開は難しいので、今後は企画提案型協働事業で市と連携し、事業の拡大を図っていきたいと考えている。

(質問) 市の健康増進課でも歩数計を使った事業が行われていると聞いている。可能であれば連携していくことが望ましいが、そうした事業との関係をどのようにお考えか。

(回答) 可能であれば他の事業とも連携していければと考えている。ただし、参加者がデータを共有する上で同じ歩数計を使うことが重要なので、歩数計は必ず同じ機器を使って行いたい。

(質問) こうした事業は継続性がなにより大切だと思われる。今後の長期的な展望について伺いたい。

(回答) 得られたデータは必ず参加者にフィードバックし、長期的に続けるメリットが感じられるような仕組みをつくっていききたい。その上で、企画提案型協働事業の終了する3年後には、長く参加してきた市民が担い手となり、事業を継続展開していきけるような仕組みの構築を目指していききたい。

(質問) 最近流行しているゲームアプリでも歩行を促進する効果のあるものがでてくる。また、1日40分以上歩くことは相当な活動量である。市が120万円を支出するという費用的効果も含め、この取り組みの意義について伺いたい。

(回答) 流行は移り変わるものであり、年配の方がどの程度そうしたアプリを使っているのかは疑わしい。新しいデバイスを提案するのも私たちの役割だと考えている。

## 提案6 印西市エンディングノートの作成と配布（エンディングサポート風）

### 提案者の発表

・パワーポイントを使い、アイデア提案と団体の過去の実績について説明を行った。

### 質疑応答

(質問) 「印西市らしい」エンディングノートとは具体的にはなにを指すのか。

(回答) 印西市だけの特徴について今は思い当たらないが、公募市民や市担当課の意見などを取り入れながら盛り込んでいきたい。

(質問) 作成したエンディングノートは有償頒布と無料配布のどちらで考えているのか。また、無料配布だとするとどういった配布先を想定しているか。

(回答) 成果物は無料配布したいと考えている。配布先については、例えば65才以上などある程度の年齢層の市民を対象にできればよい。

(質問) 終活は高齢者だけの問題ではない。そうした市民に向けてのサービスをなに

かお考えか。

(回答) 終活というと高齢者限定に感じられるので、エンディングノートの名称を「私のお願いノート」とするといった工夫ができればと考えている。将来的には若い方や病気の方を対象にした活動も検討していきたい。

(質問) まちづくりファンドを活用して自前のエンディングノートを作っていると聞いている。まちづくりファンドの用途と企画提案型協働事業の提案内容が重複しないよう留意していただきたい。

(回答) まちづくりファンドは活用しているがエンディングノートの作成には充てていない。

(質問) 市民ニーズの高まりをどのように感じているか。また、市と協働する意義をどのように考えているか伺いたい。

(回答) 講演会の実施などを通して、企画の内容によっては新しい参加者を掘り起こすことができると感じている。自主事業では活動に限りがあるが、市との協働であれば、より多くの市民にエンディングノートを配布できるというメリットがある。

(質問) 配布しただけでは書き方がわからないかもしれない。そのあたりのフォローを行う予定はあるか。

(回答) エンディングノートに関する講習会を検討している。

(質問) 本人や家族の問題に市が関わることに違和感を覚える。

(回答) 市が関わるのはエンディングノートの作成についてのみであり、ノートの中身についてはあくまで本人の問題である。

## 提案7 アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ（勇気づけサークルでこぼこピース）

### 事務局説明

- ・北村委員が勇気づけサークルでこぼこピースの関係者であることから、規程に基づき提案7の審査には加わらない旨を説明した。（北村委員退席）

### 提案者の発表

- ・模造紙を貼りだし、アイデア提案と団体の概要について説明を行った。

### 質疑応答

(質問) アドラー心理学をどのように広めていこうとお考えか。また、こうした子育てに関わる問題は、例えば経験豊富なご近所の方に訊いた方が手っ取り早いのではと思うが、いかがなものか。

(回答) もちろん、一朝一夕に広まるものではないと考えている。アドラー心理学による勇気づけ講座は、人生の困難を解決する手法のひとつとして個人が様々

な場面で応用できる実践の取り組みである。一方、近所の方のアドバイスは自分の経験の中でしか物事を語るができない、異なる性質のものと理解している。

(質問) 男女共同参画事業にアドラー心理学をどう関連付けていくのか伺いたい。また、子育て世代対象ということであれば、市で行われている子育て支援事業との連携も考えていく必要があるのではないか。

(回答) 男女共同参画事業は非常に幅広い内容を含んでいるが、アドラー心理学にも同じことが言え、様々な接点がある。市の子育て支援事業は例えば子どもの預かりのような物理的な支援が主であるが、アドラー心理学は考え方の啓発であり、支援とは言っても異なる性格のものだと理解している。

(質問) ジェンダーやダイバーシティといった部分と関連付けていくことも必要ではないか。

(回答) 団体の規模などを考慮して今回の提案内容とさせていただいた。ただ、アドラー心理学は様々な分野に応用できるので、今後対象や内容を広げていくことはいくらかでも可能である。

(質問) 子育て支援をテーマにするのもよいが、家庭や職場の問題など多様な課題に対応できる講座内容とした方が、市の協働事業によりふさわしい提案になるのではないかと思う。市との調整において、そのあたりも含めて検討していただければありがたい。

(回答) 対象を絞ることで、講座の企画内容を明確にできると考えた。子育て支援にかかわらず、広く家族を対象にすることも可能なので、市と協議して検討したい。

### ③ 審査結果発表・講評

#### 【審査結果】

提案	提案名 (提案者)	○	△	結果
4	荒れた里山の整備事業 (里地里山保全ねっと)	7	4	可
5	地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供 (ALipro)	10	1	可
6	印西市エンディングノートの作成と配布 (エンディングサポート風)	4	7	否
7	アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」 のすすめ (勇気づけサークルでこぼこピース)	7	3	可

粉川委員長の進行のもと、表のとおり各委員の評価を集計した審査結果を発表した。審査結果発表後、提案ごとの講評として、粉川委員長と志村委員が模造紙に貼りだ

した各委員の意見を集約して紹介した（下記参照：提案4～提案7）。

最後に、粉川委員長から全体の講評として、審査委員は、市民の立場から個々の企画提案が税金を投入する市の公共事業として本当にふさわしいかという観点からシビアに評価しているので、提案者はそうした部分を強く意識し、上手に事業の意義や効果を説明していくことがプレゼンテーションの重要なポイントであるとアドバイスをを行った。そして、今後の団体の活動や次の提案に期待する旨を伝えた。

#### 提案4 荒れた里山の整備事業（里地里山保全ねっと）

##### 【各委員の意見】

##### 具体性×

- ・事業計画の明確性が不明。事業計画に具体性がない。
- ・具体性に欠ける。アイデアレベルであっても、提案者が事業に対して抱いているイメージはもう少しわかりやすく伝える必要がある。
- ・里山保全活動の意義は理解できるが、印西市の協働事業として提案内容にもう少し具体性をもたせてほしい。
- ・本年事業を立ち上げたばかりで、活動実績がないし、又、事業のアイデアそのものが夢みたいで実現性に疑問が残る。そして、所有者との境界の線引きにおいては、専門性が必要であるし、今後クレーム（所有者との）が多発する可能性が考えられる。
- ・活動実績がなく、実施体制（4名）が万全でないため専門性に疑問がある。作業費も不明確。
- ・豊かな里山を残すことは、千葉ニュータウンという地域社会が抱える課題の1つだと思いいーズがあると思うが、里山というものが個人の所有である以上、深く入れない部分があると思う。整備の必要な里山を所有者から希望が出るよう、里山のリストアップの方法を変える必要があるのではないだろうか。

##### イメージ必要

- ・リスク管理が不明確。
- ・市と協働する役割分担が不明。
- ・過去の実績が無いのは非常に不安要素である。

##### 期待できるアイデア

- ・荒れた里山を整備する事業そのものは、市民の快適な生活環境を構築する上で重要なことと思いますので、是非実現して欲しい。
- ・大賛成で、すばらしい発想で同感です。是非、がんばっていただきたいのですが、整備事業の範囲とマイルストーンを概略でも良いから、明示する必要があると思います。
- ・単なる整備だけではなく、「荒れない里山」づくりのしくみについても是非知恵を絞って頂きたい。このような方向性の方が公共性が高いと思われれます。

- ・印西市の市民活動団体の中でも、里山の保全整備に取り組んでいる団体もかなりありますので、相互の連携を密にし、無駄のない活動にして欲しいと思います。
- ・一部の地域では地主の了解を得て他のNPOが保全活動等を行っている所もある。他の活動との調整や配慮についても考慮して頂きたい。何故本事業のみが市との協働事業なのかと言われたいような取り組みとして頂きたい。

#### 次はしっかり計画を！

- ・次回の提案では事業内容、予算を具体的にして下さい。
- ・良好な里山環境・自然環境を中長期的に維持する仕組みの構築が実現できるのであれば、画期的な取り組みになると思いますが、所有者・ボランティア・行政の各プレイヤーをとりまとめる・つなぎ合わせる為に、貴団体がどのような活動を行うのか、事業プランをもうひと練りしてほしいです。
- ・事業内容が多岐にわたるため、今年はどこまでやるかという目標や段階の考察が必要。自分達でどこまでやり、市にどこまでやってもらいたいかの希望も明確にする必要があるのでは（専門性もあるため）。もう少し小規模の計画をすれば可能と思う（1年で出来る範囲）。計画を作り直せばOKになるのでは。
- ・他のボランティア団体や市民参加で整備できるプログラム等を事業内容に入れてもいいのではないのでしょうか。
- ・アイデア審査が通った場合、どこまでできるのか、予算、行程表等しっかりした提案を出して下さい。
- ・事業アイデアとしては、興味深いですが、各プレイヤー（所有者・行政・ボランティアなど）をどのようにつなぎ合わせて里山の環境維持を実現していくのか、をもうひと掘り、より具体的に企画して下さい。
- ・今年度の事業計画として実施するのであれば、ある程度人員（他ボランティアも含め）の確保をしてからでなければ難しいのではないのでしょうか。⇒計画として、どの程度の人員が必要なのかによって予算も決まってくるので。

### **提案5 地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供（ALipro）**

#### **【各委員の意見】**

#### 目的・内容が明確

- ・地域社会が抱える課題を的確に捉えている。
- ・事業の目的や内容が具体的である。
- ・市との協働により、効果的でより質の高いサービスが提供することができると思われる。
- ・地域高齢者の活性化はどの地域でも必要であるが、印西市は散歩等に相応しい地域であり、取り組みやすい事業であると思う。
- ・市の役割が明確。

- ・市の担当者としっかり話し合っ、市の事業として行う上での位置付けを確認する必要がある。
- ・健康長寿を目指すための事業アイデアとしては、独創性があり、試験的な取組み実績もあるため、事業としての具体性も明確と考えます。次のステップとしては、印西市の担当部局が ALIpro さんの事業を理解し、印西市として協働事業として取り組む or 取り込めるか否かの検討になると思います。まちづくりファンドの資金の件が、いずれ協働事業の募集要項に抵触するおそれがありますが、市の担当部局とより事業内容を詰めたうえで、ファンドを使うか協働事業で行くのかを判断してもよいのではないのでしょうか？事業アイデアとしては独創性があり、また具体性も明確と考えます。

### 事業計画

- ・高齢化社会は今後ますます深刻な状況になってきている現状を考えた時、高齢者向け **program** は重要と考えます。歩数計の活用のみならず、他の **tool**、**program** を活用した支援策を望みます。
- ・アクセス **point** の選定が、参加者の拡大につながると思いますので、是非多くのアクセス **point** を設立して頂きたい。
- ・計測対象が歩数のみという簡便なプログラムなので、より多くの高齢者が参加でき、その結果元気な高齢者の地域参加に寄与できるのではないか。
- ・歩数計とデータ管理を行うことで、外に出る機会、コミュニケーションが増えることはよいと思う。
- ・将来的に、何人ぐらいまで拡大可能かを明確にする必要があると思いますが、健康増進ツールとしては、やる価値ありと考えます。
- ・総務省等のスマートウェルネスシティ構想の実現につながる等、自治体にも協働のメリットが出るようなビジョンや方策も同時に検討して頂きたい。
- ・予防医療・健康増進に関する手法は、身体活動増進＝歩くだけでなく、血圧、体重等や他いくつかの活動要素を組み合わせる必要もあると思います。
- ・事業の内容は明確であるが、すでにスマートフォンアプリを活動した類似のプログラム（歩数計付きのスマホがほとんどであるし、又、ポケモンゴーも歩くスマホのゲームである）があるし、新しいアイデアとは思えない。又、1日40分以上の歩く日常的身体活動は、高齢者には、苦痛であると思うし、費用対効果の面で必要経費、年120万円程度も、何か市民への2重投資の意味合いが強く（高齢者社会で2025年には団塊の世代がすべて75歳を超えるし、ほとんど今、団塊の世代より後の世代はスマホを使っている）なると思う。アイデアとして、少し古いかなと考えます。
- ・アイデアは良いが市との協働事業としては対象が限定的であるように思われます。市の協働事業とするためには、市民全体の健康増進を促す多様なしくみづくりや分析結果を他の行政施策に生かせるようなデータの共有（参加者だけでなく市も含め）システムの

構築なども重要な取組みと思われます。

- ・高齢者の健康維持を日常身体活動である散歩、買い物、家事などの増加をすることで促すアイデアは、わざわざ運動を行うということではないので高齢者には取り組みやすいアイデアだと思う。共通の歩数計でグループ内で共有することは、仲間意識を維持することになると思います。5年後、参加者の70%がクリアし、広がっていくことを期待しています。

#### 継続性

- ・経済的な視点に欠けている。いつまで公的なお金で続けていきますか？
- ・協働事業終了後の展開については、要検討。もう少しアイデア必要。
- ・データを集めて効果を測定する事業なので、ある程度の継続性が必要となる。長期的事業をするための展望を今から具体的にもってほしい。

### 提案6 印西市エンディングノートの作成と配布（エンディングサポート風）

#### 【各委員の意見】

#### 印西市特有？

- ・印西市特有のエンディングノートは考えづらいので、市と協働する事業としてふさわしいとは思えない。
- ・生存している間はずっと、人生のエンディングにあたり地域性に特化する理由があるのだろうか。
- ・「印西市らしい」が明確に示せないとこの事業は成立しない。すぐに答えられるようなイメージを確立した方が良いのでは？

#### 協働 or 市民？

- ・市との協働によるエンディングノート本来の相乗効果が希薄である。
- ・「老いじたく」「終活」「エンディングノート」は市民活動として行ったほうがよいと思う。公的支援が直接入る意義がまだわからない。
- ・個人的な関心事によるものが大きく、市の協働事業としてふさわしいのか担当課の意見を聞きたい。
- ・エンディングノートの利用が自分と家族の人生にとり、大切なことであると理解できる。又、個人的にエンディングサポート風さんで利用された方にとってはとても有意義な支援であったと思う。しかし、まだそこまで意識の高い方がどのくらいいるのか疑問がある。また人生の最後にかかわることだけに、とても繊細な問題であり、もう少し市民の意識を向上させる必要があるのでは。必要であると思うが配布時期は早いように思える。
- ・エンディングノートの重要性は理解できるが結局の所、個人の問題にも思われます。市の協働事業とする意義（公共性）は、弱いように感じます。行政サービスとして必要な項目を協議して再検討すべきと思われます。

- ・「エンディングノートとは何か？」ということについては十分説明をしていただいていると思いますが、なぜ、これを市の協働事業としてふさわしいのか、についての説明が不十分と考えます。個人の問題として関心が高いのは事実だと思いますが、そこに行政（市）が入っていくことについて、その必要性、公益性、正当性があること、の説明がほしいです。

#### 事業内容への不安

- ・事業計画が少しあいまいか。
- ・市民のニーズが不明。
- ・配布対象・有償・無償区分等をもう少し明確にされた方が良いと思います。
- ・エンディングノートに書かれた個人情報が入正しく管理されるのかが不安。
- ・設立時、葬儀のサポートを行っていたこの事業者が最終的に目指している事業の活動の目的は、エンディングノートを入口として、登録申請書（2016年7月15日）によると、葬儀サポート、エコ棺の販売等に向かっていく、そういうビジネスモデルに一種の疑義を感じます。
- ・販売が目的ではないことがわかり、安心しました。

#### 対象、拡げては？

- ・65才になった高齢者にエンディングノートを配布することは、これから、頑張ろうとする方に対して少し失礼ではないか。
- ・お話しにもありましたが、終活は高齢者限定ではないので、是非不安を持っている人の拡大を考えて活動して行って下さい。

#### 意義ある内容

- ・協働事業としては、一まつの不安はありますが、市民が興味を持っている課題だと思いますので期待しています。
- ・超高齢化社会を迎えて、印西市民に於いても「エンディング」は、重要なテーマであると思います。従って、地域や市民ニーズは高いと思います。

### **提案7 アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ（勇気づけサークルでこぼこピース）**

#### **【各委員の意見】**

#### 新たな取り組みに期待

- ・カタチから入りがちな市（行政）に対して、「考える」から入る貴団体のアプローチは独創性があると思います。
- ・市の取り組みと是非連携して下さい。
- ・アドラー心理学を理解するだけでも必要であり、少しでも広がっていけば良いと思います。

- ・ 拡張性を期待して、総合評価を○としました。期待しています。
- ・ 男女共同参画の必要性が叫ばれる中で、子育て世代を対象とした取り組みは、最初は小さなものであるかもしれないが、重要なテーマであると考えられる。
- ・ 2013年6月より、すでに「勇気づけ勉強会」を開催して、150名余りの参加者を集めている…。アドラー心理学による新たな視点での啓発活動に魅力を感じる。又、予算年間15万円程度も適切だと思うし、市との協働事業として、ひとまずスタートする価値を感じる。

#### 市との協働事業？

- ・ 「勇気づけコミュニケーション」そのものは興味深いですが、指定テーマとの関連付けが弱いと思う。
- ・ 市との協働事業としてどのような効果があるのか不明。
- ・ 指定テーマである「男女共同参画」と本事業（アドラー心理学）との関係は抽象的には結びつく事は、おぼろげながら理解できるが、市の協働事業にふさわしいとは思えない。（ただしアドラー心理学「嫌われる勇気」に興味はある）
- ・ 指定テーマということで、「啓発事業」を行うにあたってのひとつの切り口として「アドラー心理学」を活用する、という提案内容と理解しました。もしかすると、コンペ形式あるいは、担当部局主催の提案募集方式の方がよいのかもしれませんが。（協働事業というカタチではなく）

#### 協働事業・男女共同参画 目的を明確に

- ・ 担当課と十分な議論が必要。「市の事業」としての妥当性があるか、特定の考え方を広げる活動とならないか留意が必要。
- ・ 市民にアドラー心理学をいかに理解させるのかが不明確。
- ・ 今の印西市で解決しなければならない課題、問題なのかが明確でないのが気になります。
- ・ 男女共同参画を達成するための、1つのツールとして、「アドラー心理学」がある、という位置づけを、明確にする必要がある。アドラー心理学を広げることは目的ではない。

#### 「啓発」を含んだ事業計画作り

- ・ 啓発事業としての事業内容となっているのか。一部分への対象事業ではなくなるようにする工夫必要。
- ・ この事業の広め方（宣伝）が不明。
- ・ 講座の実施についての概要は明確だが参加者をどのように増やすか、関心をもつ人をどのように増やすか計画に入れてほしい。
- ・ 男女共同参画に関わる協働事業という観点からは、「勇気づけの子育て」+αの講座では少し内容が離れた感じが否めません。職場や家庭において男女共同参画時代に起こる諸課題についても心理学的観点から講座を設定して頂くような工夫を検討して頂きたい。

以上